

和光市立広沢小学校 危機管理マニュアル



急がず、慌てず、
広い心でさわやかに



I 学校における危機管理の方針

1 学校における危機管理とは

学校教育に関して生じうる事件や事故そのものを防止し、あるいはその被害を最小限に食い止めるための措置（予防的措置）及び生じてしまった事件や事故に対する善後策に関する行為をいう。学校における危機管理は、管理職だけでなく教職員全員が関わるのが重要であり、危機意識を持って日々の教育活動や業務に取り組む組織づくりを進めていかなければならない。

2 学校における危機管理の目的

- (1) 児童と教職員の命を守ること。
- (2) 事件・事故の管理を適切に行って、児童と教職員の信頼関係を維持し、深めること。
- (3) 教育活動の正常な運営を行い、学校に対する社会的信用や信頼を得ること。

3 学校における危機管理領域

- (1) 非常災害及び学校事故（火災・地震・竜巻・台風・学校事故等）
- (2) 教師に係る事件・事故（体罰・人権侵害・服務・勤務等）
- (3) 子どもに係るトラブル・事件（教師への暴行・非行・犯罪等）
- (4) 人間関係に係るトラブル・事件（いじめ。不登校等）
- (5) 施設・設備
- (6) 情報公開
- (7) 保護者とのトラブル

4 危機管理（さ・し・す・せ・そ）の心構え

(1) 心構え 1

最悪（さ）を思い、慎重（し）かつ素早く（す）誠意（せ）をもって、対処することが求められるが、組織（そ）の一員として独りよがりな行動を慎むことが大切である。

(2) 心構え 2

- （さ）最初の対応を慎重に行う。
- （し）指揮系統をはっきりさせる。
- （す）推測で動かず、正確な情報を得る。

- (せ) 戦略と戦術にたける。
- (そ) 組織の役割分担を明確にする。

5 学校における危機管理体制の4つのポイント

- (1) 危機の予知（危機的状況が起こる可能性を予知しておくこと）
- (2) 危機の回避（危機的状況が起こる前に最大限の努力をすること）
- (3) 危機への対処（対応の仕方や役割分担等を日ごろから周知しておくこと）
- (4) 危機の再防止（再防止に万全を期すこと）

6 学校における危機管理の方法

- (1) 事実の正確な把握
- (2) 救命の必要性の判断
- (3) 教職員への対応
- (4) 教育委員会への報告
- (5) 被害者・加害者・保護者への対応
- (6) 保護者の会への報告
- (7) マスコミ対応
- (8) 記録の指示
- (9) 被害者・加害者・保護者との信頼回復
- (10) 再防止策の策定

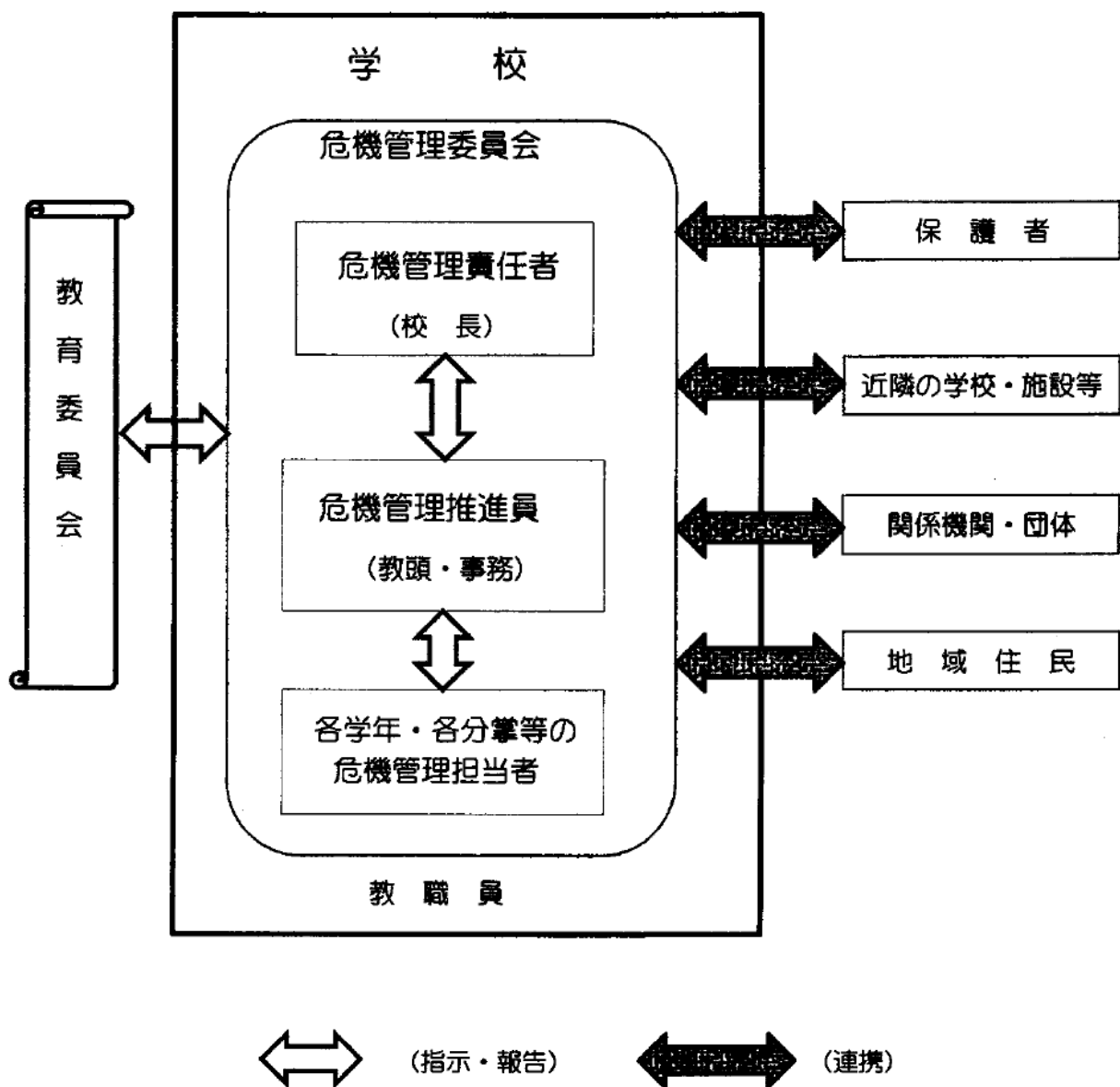
※ 校長は、最悪の場合を想定し常に最悪の事態が起こった時の対応の仕方を講じておく。

※ 教職員は、どんな場合でも管理職への報告・連絡・相談を行い組織の一員であることを意識する。

II 学校の危機管理体制

1 危機管理体制の整備

学校が保有する多様なリストを体系的にとらえ、未然防止の取組や危機発生時の対応など組織的に危機管理を行うため、学校の規模などに応じて危機管理責任者、危機管理委員会などの組織体制を整備する。



① 危機管理責任者（校長）

校長は、学校における危機管理責任者として、児童生徒等の安全・安心の確保を第一に考え学校における危機管理体制の確立に万全を期すとともに、平常時のリスクの低減対策や危機発生時の迅速かつ的確な対応を行う。また、関係機関との連絡調整の責任者並びに情報収集、情報提供及び情報発信の責任となる。

② 危機管理推進委員

危機管理推進委員は校長の指示に基づき、平常時にはリスクの体系的な把握、危機管理マニュアル・連絡体制の整備、研修・訓練の企画・実施など危機管理の進行管理を行う。危機発生時には、校長の方針に基づき対応を行う。また、関係機関との連携調整や校内の調整を行う。

③ 学年・校務分掌等の危機管理関係者

危機管理関係者は、教育活動や業務等が有するリスクを把握するとともに、危機発生を未然に防止するための活動を行う。また、危機発生時には校長の方針に基づき対応を行う。

④ 危機管理委員会

危機管理を推進するための校内連絡調整機関として、危機管理委員会を設置する。危機管理委員会は校長を委員長とし、危機管理推進委員等必要な人員で構成する。危機管理委員会は、学校の危機管理を推進し、危機管理に関する情報収集、分析及び情報共有を行い、全校的な対応が必要な危機発生時における対応方針の検討及び学校内の調整を行う。

⑤ 教職員

教職員は、日常の教育活動や業務を遂行するにあたり、リスクについて常に関心を持ち、リスクの内容や対策等について、校長又は危機管理推進委員と絶えず相談するものとする。また、危機発生時には校長の方針に基づき対応する。

⑥ 教育委員会、近隣の学校及び施設との連携

発生した危機により、学校内の対応だけでなく、地域や県全体など広い範囲での対応や小中学校と県立学校、幼稚園、保育所、学童保育クラブ等を含めた対応が必要な場合がある。そのため、各学校と教育委員会の速やかな情報の伝達や交流、対策の実施などの連携を行う。また、必要に応じて近隣の学校等に情報を提供する。

⑦ 保護者や地域等の連携

学校の危機管理を進める上で、保護者や地域等からの情報や意見、様々な協力を得ることが重要であり、日頃から信頼関係を築く取組を行う。

⑧ 関係機関との連携

学校で発生する危機は、学校だけで解決できない場合も多くある。危機が発生してからでなく、日頃から警察や青少年健全育成関係団体など、関係諸機関等との連携を行なうものとする。

2 『危機対策本部』の設置

きわめて重大な危機が発生した場合、指揮系統を明確にし、情報収集や対応の決定等を迅速に行うために危機対策本部を設置する。

① 設置

発生した場所がきわめて重大である場合は、学校に危機対策本部を設置する。

② 設置基準

- ・被害が深刻な場合や拡大が予想される場合
- ・学校経営に与える影響が甚大な事態が発生した場合、またはそのおそれがある場合。
- ・その他校長が必要と認めた場合。

③ 組織

- ・対策本部には、本部長（校長）、副本部長（教頭）を置く。
- ・対策本部には、必要に応じて総括班、広報班等を設置する。
- ・現場があり、応急対策を迅速かつ的確に実施するために必要な場合は、現地対策本部を設置する。

④ 所掌事項

- ・対策の決定及び実施に関すること。
- ・関係機関等との情報収集、情報共有及び連絡調整に関すること
- ・広報等に関すること
- ・その他必要なこと

Ⅲ 対象とする危機と緊急連絡体制

□対象とする危機

			危機の例示
児童に好ましくない影響を及ぼす事態	学 習 活 動	学 習 活 動	運動時、実習・実験、校外活動中の事故
		特 別 活 動	修学旅行、現場学習等での事故
		そ の 他 活 動	学校施設利用中の事故
	交 通	交 通 事 故	登下校時の死傷事故
	健 康	感 染 症	新型コロナウイルス等への集団感染
		食 中 毒	給食等による集団中毒
		アレルギ-	食物アレルギーによるアナフィラキシーショック
	人権・同和	人 権 侵 害	差別事象
	問 題 行 動 等	街 頭 犯 罪	児童、生徒による恐喝、ひったくり
		暴 力 行 為	児童、生徒間の傷害行為
		い じ め	いじめに起因する重大事案
犯 罪	不 審 者	不審者による殺傷、連れ去り	
	テロ・有事	水道への毒物混入、爆破予告	
そ の 他	そ の 他	その他	
学校の信頼を損なう事態	教 職 員	不 祥 事	教職員の不祥事（飲酒運転、セクハラ、体罰等）
		健 康 管 理	心身の不調による業務への影響
		事 故	交通事故
	教 育 計 画	教 育 課 程	未履修
	施 設 設 備	施 設 設 備	施設の保守管理、修繕の不備等に起因する事故
	財 務	資 金 管 理	公金の遺失
		会 計 処 理	不適切な公金支出
	情 報	個 人 情 報	個人情報への漏えい
		情 報 シ ス テ ム	システムダウンによる影響、ウイルスによる影響
	業 務 執 行	保 護 者	保護者に対する不適切対応による信用失墜行為
		広 報 ・ 報 道	マスコミに対する不適切対応による信用失墜行為
威 力 業 務 妨 害		不当要求、クレーム	

□緊急連絡体制

1 救急車の要請

・和光消防署 461-0119

・朝霞警察署 465-0110

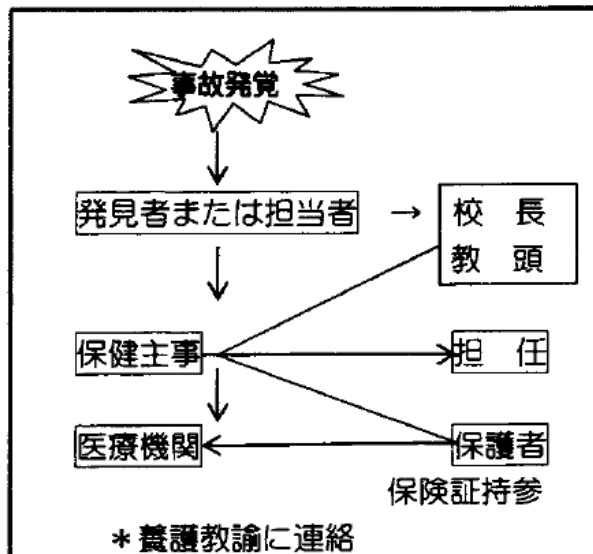
【救急車要請基準】

- ・心停止、呼吸停止の状態
- ・意識障害がある状態
- ・ショック症状（蒼白・脱力感
脈異常・冷や汗・あくび）
- ・痙攣が持続する状態
- ・激痛が持続する状態
- ・多量の出血や骨の変形を伴う状態
- ・大きな開放創をもつ状態
- ・広範囲に火傷を受けた状態 等

【救急車への通報事項】

- ① 目的地 学校住所
和光市広沢1-5
- ② だれが 氏名、性別、年齢
- ③ どこで 場所
- ④ どこを けがをした場所
- ⑤ どうした（意識がない）
- ⑥ 通報者名 自分の名前

2 養護教諭不在時の対応



大和タクシー

461-2222

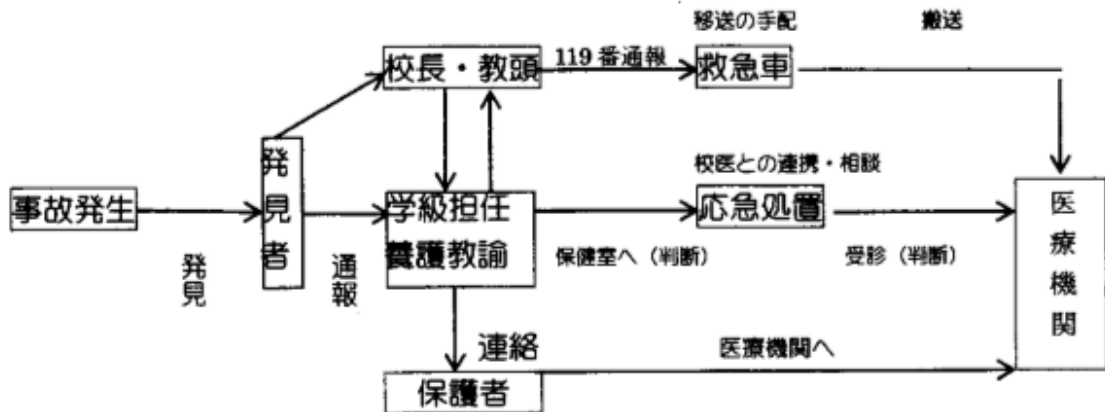
3 医療機関名

診療科目	病院名	電話番号
内科	門田 隆太郎 (校医)	461-6412
眼科	佐々木 淳 (校医)	467-0071
耳鼻科	大森 英生 (校医)	467-3314
歯科医	島田 聡 (校医)	469-1010
歯科医	深町 和宏 (校医)	480-2525
整形外科	勝海整形外科	464-2685
	富沢整形外科	468-3456
総合病院	国立埼玉病院	462-1101
	TMGあさか医療センター	466-2055

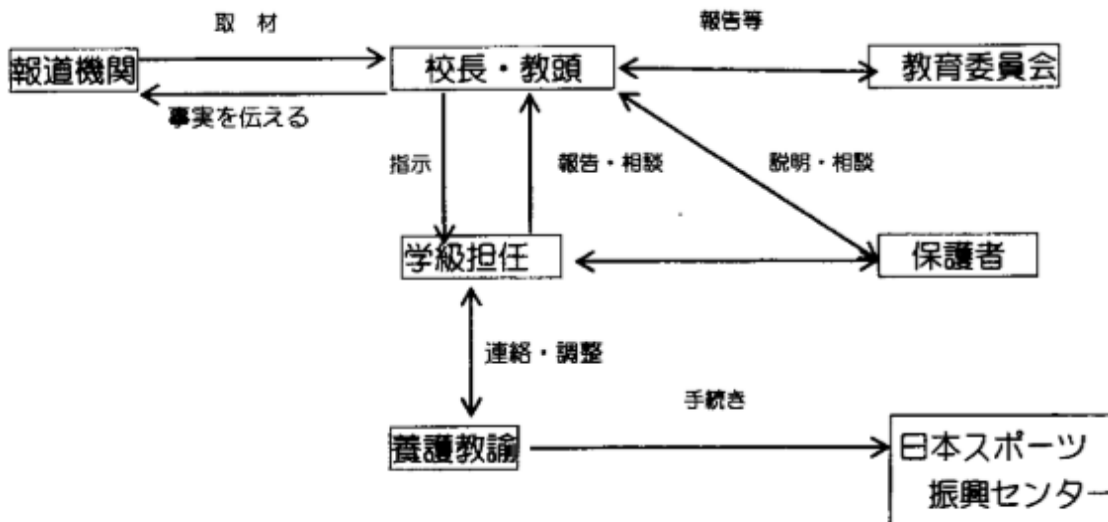
事故発生時の緊急連絡体制

【校内での事故及び登下校時の事故の場合】

■事故発生直後（10分以内の対応）



■医療機関へ搬送後の対応



【危機を防止するために】・・職場における行動指針

- 1 「ちょっと変だな」「大丈夫かな」という意識をもって仕事をしているか
- 2 コンプライアンス(法令順守)をはみ出した行為をしていないか
- 3 「社会的責任」または、「道義的責任」からみて問題はないか
- 4 児童生徒の立場と目線、保護者の顔を思い浮かべているか
- 5 職場の「疑義事項」を「三猿主義」でうやむやにしていないか
(アカウントビリティを果たせるか)
- 6 一つのクレームにも、迅速・的確に誠意をもって対応しているか
- 7 そのことを誰に対しても堂々と説明できるか
- 8 「敏腕な社会部記者」が知っても問題にならないかを考える
- 9 「学校常識」でなく「社会の常識」で判断しているか
- 10 「リスク記事」を教訓としているか

人は起こしたことで非難されるのではなく、起こしたことに**どう対応したか**、によって非難されるのである

【危機的状況が発生した場合の基本姿勢】

「最悪を想定し、慎重かつ素早く、誠意をもって、組織で対応する」

さ	さいあく	その時点における次の展開の最悪状況を想定する
し	しんちょう	慌てず、焦らず、諦めず
す	すばやく	一刻も早い措置
せ	せいい	誠意は相手が感じる感情
そ	そしき	一人で何もかもできる人などいない

一人の子どもを粗末にしたとき その教育(学校)は光を失う

こどもは教師の教える力だけでなく、自分を本気でよくしようとしてくれているのかと本質を見ている。子どもの世界に嘘はない。どんな学校でも教師次第でよくなり、教師次第で悪くなる。

教師とは、環境や保護者、子どもの質もあるが、一番は教師の能力。そして、その能力とは、あらゆることに温かいハートをもつ他愛精神である。それがあれば、どんな時でも子どもはついてくる。

